

「飛驒おとめ」味わって

桃の新品種、飛驒高山高生ら栽培

県初の桃の新品種「飛驒おとめ」をPRする「飛驒おとめプロジェクトチーム」の飛驒高山高校の園芸科学科の生徒4人が17日、高山市役所を訪れ、國島芳明市長に飛驒おとめをPRした。

(高木愛加)

高山市長にPR

飛驒おとめは、大玉で色も良く、甘いのが特徴。白鳳と昭和白桃の端境期に収穫できる。本格出荷は来年の予定。飛驒地域には748本植えられているが、出荷できるまで8～10年かかるという。

同チームは同校、飛驒農林事務所、県中山間農業研究所、J Aひだ実出荷組合協議会、J A全農岐阜、J Aひだが集まり2016年4月に発足した。同校に植えられている飛驒おとめ5本のうち3本は収穫できる状態という。生徒は「頑



國島芳明市長に「頑張って飛驒おとめをPRし、来年の本格販売につなげたい」と話した飛驒高山高校の生徒＝高山市役所

張って今年PRし、来年の本格販売につなげたい。まずは飛驒の人においしさを知ってほしい」と話した。國島市長は「海外出荷も視野に付加価値を付け、たくさん収穫できるよ

うにならない」と話した。

20日には、同市内のエブリフレスポ店で試食販売を行う。